

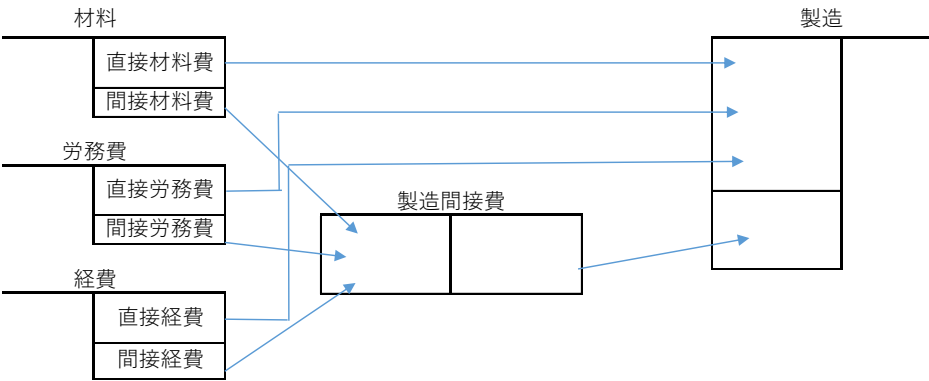
2 年流通経済科 原価計算 臨時休校中課題

令和 2 年 5 月 13 日配信

「部門別個別原価計算 教科書 P121～」を読み、問題集 P58～72 まで進めてください。

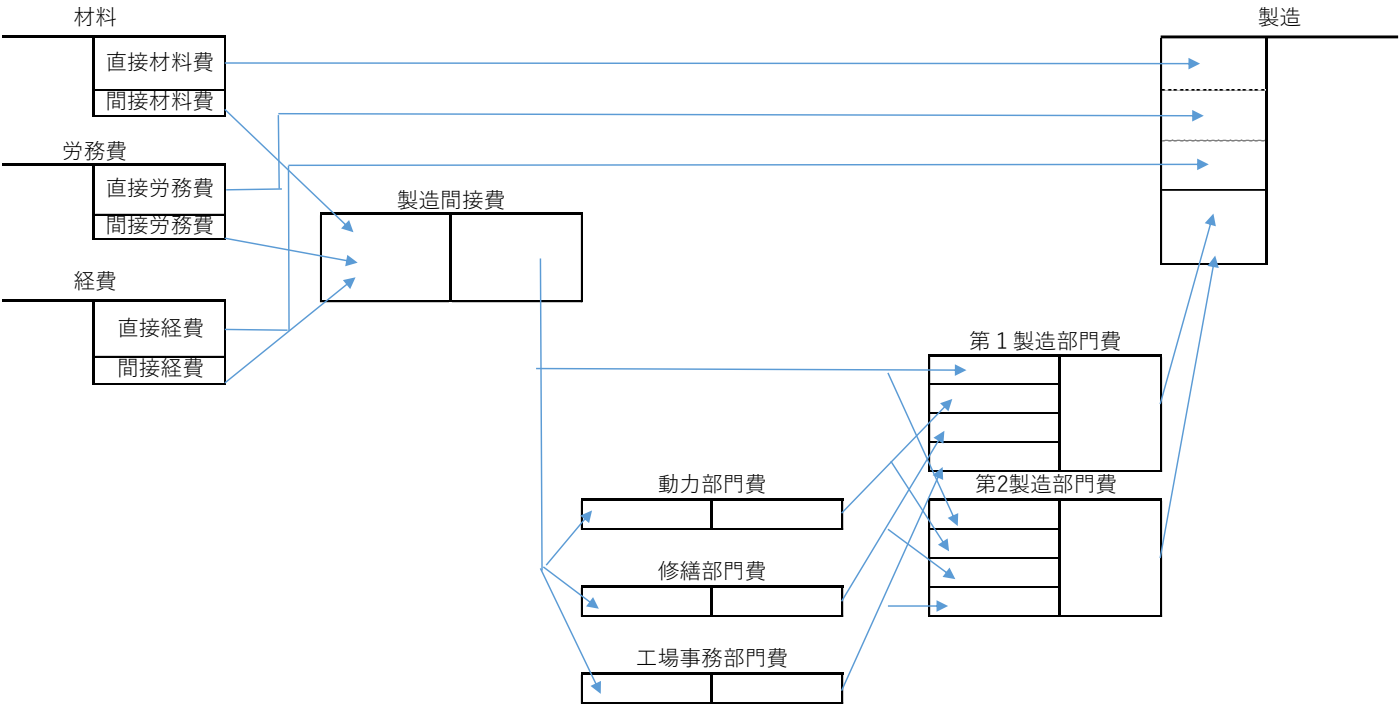
資料として
「部門別個別原価計算」の流れを参考にして問題に取り組んでください。
なお、問題集の解説も記載します。参考にしてください。

今まで学んできた個別原価計算の流れ



部門別個別原価計算の場合

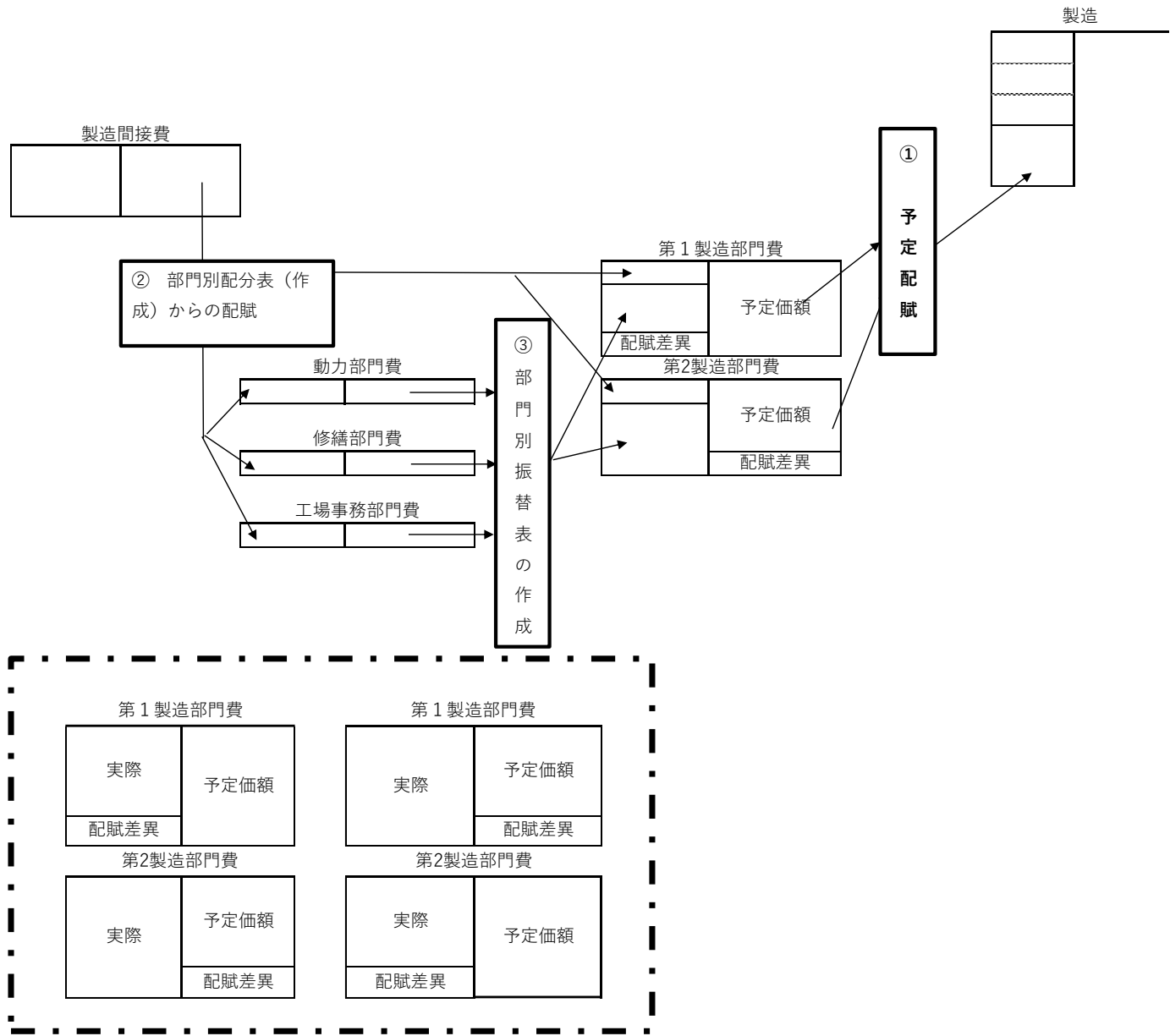
製造間接費をすぐに製造へ配賦せず、部門別に配分し、第1製造部門費と第2製造部門費・・・などにまとめてから製造に配賦する。
ようは、製造間接費→各部門費→第1,第2製造部門費 等→製造 となり、製造に配賦するまで手間（2つ）をかけるイメージで考えると良いかなと。



製造部門費の予定配賦

注意・・・製造部門費を予定配賦(製造に振り替える)タイミングが一番先になる。

- ① 製造に製造部門費を予定単価で振替
- ② 製造間接費を各部門（第1や動力など）に振替(実際価格)
- ③ 補助部門費を製造部門費に振替
- ④ 予定価額と実際価額の差を製造部門費配賦差異で処理



▶15-3▶ 次の資料によって、部門費振替表を相互配賦法によって完成しなさい。また、補助部門費を製造部門に配賦する仕訳を示し、各勘定に転記しなさい。

補助部門費の配賦基準

	配賦基準	第1製造部門	第2製造部門	動力部門	修繕部門	工場事務部門
動力部門費	kW数 × 運転時間数	50kW × 600時間	40kW × 500時間	—	25kW × 400時間	—
修繕部門費	修繕回数	14回	6回	4回	—	1回
工場事務部門費	従業員数	5人	3人	1人	1人	—

部門費振替表

相互配賦法

令和〇年/〇月分

部門費	配賦基準	金額	製造部門		補助部門		
			第1部門	第2部門	動力部門	修繕部門	工場事務部門
部門費合計		1,740,000	300,000	200,000	600,000	400,000	240,000
動力部門費	kW数 × 運転時間数	600,000	300,000	200,000	—	100,000	—
修繕部門費	修繕回数	400,000	24,000	96,000	64,000	—	16,000
工場事務部門費	従業員数	240,000	120,000	72,000	24,000	24,000	—
第1次配賦額		1,240,000	644,000	368,000	88,000	124,000	16,000
動力部門費	kW数 × 運転時間数	88,000	52,800	35,200	—	—	—
修繕部門費	修繕回数	124,000	86,800	37,200	—	—	—
工場事務部門費	従業員数	16,000	10,000	6,000	—	—	—
第2次配賦額		228,000	149,600	78,400	—	—	—
製造部門費合計		1,740,000	793,600	446,400			

$$200,000 + 368,000 + 78,400 = 646,400$$

借	方	貸	方
第1製造部門費	793,600	動力部門費	600,000
第2製造部門費	446,400	修繕部門費	400,000
		工場事務部門費	240,000

第1製造部門費	
製造間接費	300,000
諸口	793,600
第2製造部門費	
製造間接費	200,000
諸口	446,400

動力部門費	
製造間接費	600,000
諸口	600,000
修繕部門費	
製造間接費	400,000
諸口	400,000
工場事務部門費	
製造間接費	240,000
諸口	240,000

第1 = 第2のみ
 $71 = 71692$
 $50kW \times 600時 = 30,000$
 $40kW \times 500時 = 20,000$
 $25kW \times 400時 = 10,000$

①次配賦 動力 ¥600,000
 $50kW \times 600時 = 30,000$
 $40kW \times 500時 = 20,000$
 $25kW \times 400時 = 10,000$
 $60,000$

第1 ① $600,000 \times \frac{30,000}{60,000} = 300,000$
 第2 ② $600,000 \times \frac{20,000}{60,000} = 200,000$
 修 ③ $600,000 \times \frac{10,000}{60,000} = 100,000$

修繕 ¥400,000
 第1 ④ $400,000 \times \frac{14回}{20回} = 280,000$
 第2 ⑤ $400,000 \times \frac{6回}{20回} = 120,000$
 工 ⑥ $400,000 \times \frac{1人}{10人} = 40,000$

工場事務 ¥240,000
 第1 ⑦ $240,000 \times \frac{5人}{10人} = 120,000$
 第2 ⑧ $240,000 \times \frac{3人}{10人} = 72,000$
 修 ⑨ $240,000 \times \frac{1人}{10人} = 24,000$

②次配賦 第1 = 第2のみ
 動力 ¥88,000 ① $88,000 \times \frac{30,000}{50,000}$
 ② $88,000 \times \frac{20,000}{50,000}$
 修繕 ¥124,000 ① $124,000 \times \frac{14}{20}$
 ② $124,000 \times \frac{6}{20}$
 工場事務 ¥16,000 ① $16,000 \times \frac{5人}{8人}$
 ② $16,000 \times \frac{3人}{8人}$

▶16-8▶ 長野製作所は、個別原価計算を採用し、X製品（製造指図書#1）とY製品（製造指図書#2）を製造している。下記の資料によって、次の各問いに答えなさい。（第81回）

- 部門費振替表を相互配賦法によって完成しなさい。
- 補助部門費を各製造部門に配賦する仕訳を示しなさい。
- 第1製造部門費および第2製造部門費の配賦差異を、製造部門費配賦差異勘定に振り替える仕訳を示しなさい。
- X製品（製造指図書#1）の原価計算表を完成しなさい。

ただし、
i 月初仕掛品はなかった。
ii 賃金の消費高の計算には、作業時間/時間につき¥1,280の予定賃率を用いている。
iii 製造間接費は部門別計算をおこない、直接作業時間を基準として予定配賦している。

資料

a. 年間製造間接費予定額・年間予定直接作業時間

	第1製造部門	第2製造部門
年間製造間接費予定額(予算額)	¥13,392,000	¥8,400,000
年間予定直接作業時間(基準操業度)	18,600時間	13,000時間

b. 製造部門の当月直接作業時間

	第1製造部門	第2製造部門
直接作業時間	850時間	750時間
製造指図書#2	650時間	550時間

c. 補助部門費の配賦基準

	配賦基準	第1製造部門	第2製造部門	動力部門	修繕部門
動力部門費	kW数×運転時間数	20kW×800時間	16kW×500時間	—	6kW×100時間
修繕部門費	修繕回数	5回	4回	2回	—

d. 完成品数量 X製品（製造指図書#1）80個

(1) 相互配賦法 部門費振替表 令和〇年/月分

部 門 費	配賦基準	金 額	製 造 部 門		補 助 部 門	
			第 1 部 門	第 2 部 門	動力部門	修繕部門
部門費合計		1,810,000	676,000	501,000	369,000	264,000
動力部門費	kW数×運転時間数	369,000	240,000	120,000	—	9,000
修繕部門費	修繕回数	264,000	120,000	96,000	48,000	—
第1次配賦額		633,000	360,000	216,000	48,000	9,000
動力部門費	kW数×運転時間数	48,000	32,000	16,000	—	—
修繕部門費	修繕回数	9,000	5,000	4,000	—	—
第2次配賦額		57,000	27,000	20,000	—	—
製造部門費合計		1,410,000	1,073,000	787,000	印	

借	方	貸	方
第1製造部門費	897,000	動力部門費	369,000
第2製造部門費	236,000	修繕部門費	264,000

借	方	貸	方
第1製造部門費	7,000	製造間接費配賦差異	7,000
製造間接費配賦差異	9,000	第2製造部門費	9,000

(4) 製造指図書#1 原価計算表

直接材料費	直接労務費	製造間接費	集計
		部門 時間 配賦率 金額	摘要 金額
1,656,000	2,048,000	第1 850 720 612,000	直接材料費 1,656,000
		第2 750 560 420,000	直接労務費 2,048,000
			製造間接費 1,032,000
			製造原価 4,736,000
			完成品数量 80個
			製品単価 ¥59,200

予定率 ¥1,280 X (#1 第1製造部門費850時 + 第2 750時)

手帳に記入。

- ① 部門費振替表の作成をする。140, 資料1から予定配賦率(1時間あたり)を出しに記入。
- ② 部門費振替表から仕訳を行う。
- ③ 実際の予定と比べて仕訳を行う。
- ④ 原価計算表の作成をする。